

筑波大学 MEIKEI オープンテニス運営スタッフの参加動機に関する研究

－参加動機と組織コミットメントの関係に着目して－

菅谷 理乃 (筑波大学)

1. 研究の目的

本研究は、筑波大学 MEIKEI オープンテニスを、小規模スポーツイベントの事例とし、その運営を担う筑波大学テニス部員のボランティアの参加動機と組織コミットメントの関係を把握し、活動意欲向上に向けた施策を提案するために、以下を目的とした。

- 1) 筑波大学 MEIKEI オープンテニスの参加動機構造を把握する。
- 2) 組織コミットメントに対して影響力のある参加動機因子を明らかにする。
- 3) 組織コミットメントを高める施策を提案し、その有効性を検証する

2. 研究の方法

- 1) 対象者：筑波大学 MEIKEI オープンテニス運営スタッフ 44 名
- 2) 調査時期：平成 30 年 10 月 2 日～5 日
- 3) 調査方法：参加動機については 24 項目、組織コミットメントについては 3 項目を設定し、「まったくあてはまらない」から「とてもよくあてはまる」までの 7 段階リッカート尺度で測定した。
- 4) 分析方法：探索的因子分析(主因子法、バリマックス回転)を行い、参加動機因子を抽出した。その後、組織コミットメントを従属変数、参加動機因子を独立変数としてステップワイズ法による重回帰分析を行った。

3. 結果と考察

因子分析を行った結果、6 因子が抽出された。抽出された因子をそれぞれ(1)社会的奉仕(2)自己成長・自己発揮(3)他律参加(4)報酬(5)参加者交流(6)レクリエーションと名付けた。先行研究と同類の因子が抽出されたことから、ボランティアの参加動機には一定の普遍性があることが示唆された。

重回帰分析の結果、組織コミットメントに対して影響を与える参加動機因子は、「社会的奉仕($\beta =$

$0.621, p < 0.001)$ 」、「自己成長・自己発揮($\beta = 0.401, p < 0.001)$ 」、「報酬($\beta = -0.241, p < 0.05)$ 」、「他律参加($\beta = -0.233, p < 0.05)$ 」であった。

組織コミットメントに対して正の影響を与える参加動機因子は、「社会的奉仕」と「自己成長・自己発揮」であり、この参加動機を高めることで組織コミットメントも高まる可能性があることが示唆された。

「社会的奉仕」の参加動機を高めるためにはコンセプトブックを活用して、活動の意義を伝える施策が有効であることが示唆された。「自己成長・自己発揮」の参加動機を高めるために、行動規準を作成し、学生に裁量権を与える施策(行動規準の作成、企画書のフォーマットの作成、コーディネーターの設置)を行うことが有効であることが示唆された。

4. 結論

本研究の結論は以下のとおりである。

- 1) 小規模スポーツイベントにおけるボランティアの参加動機構造には、一定の普遍性があることが示唆された。
- 2) 組織コミットメントに対して正の影響を及ぼす参加動機因子は、「社会的奉仕」と「自己成長・自己発揮」であった。
- 3) 社会的奉仕の参加動機を高めるためには、大会の意義や、参加者の活動がどのように役立っているかをまとめ、視覚的にわかりやすく伝える施策(コンセプトブックの活用)が有効であることが示唆された。
- 4) 自己成長・自己発揮の参加動機を高めるためには、行動規準を設け、裁量権を与える施策(行動規準の作成、企画書のフォーマットの作成、コーディネーターの設置)が有効であることが示唆された。

5. 主な参考文献

- 1) 桜井政成, ボランティアマネジメント自発的行為の組織化戦略, ミネルヴァ書房, 2007 年.